

国連人権理事会御中

2017年6月16日

NGO: 国際キャリア支援協会

教授 山下英次

日本の言論の自由

国連特別報告者デイヴィッド・ケイの日本の言論の自由に関する報告書は、日本のインターネットについては高い自由度があるとして称賛している。しかし、放送・印刷メディアを含むそれ以外の分野については、日本の言論状況について大きな懸念を表明している。外国人を含めて日本に住むほとんどすべての人々にとって、ケイ氏の見方は、日本の現実に全くそぐわない。実際、ケイ氏の見方は、日本共産党のそれとかなり近いように思われる。

われわれには、ケイ氏は、日本や外国、特にアメリカにいる一握りの極端に反日の人たちの影響を強く受けているものと思われる。その点については、われわれには確証がある。例えば、ケイ氏とコネティカット大学のアレクシス・ダッデン教授は、ケイ氏が日本に関する暫定報告を発表した昨年4月のすぐあと、ケイ氏の勤務先であるカリフォルニア大学アーヴァイン校で、「日本における言論の自由の脅威」と題する2人による公開対話を開催した。ダッデン教授は、長年にわたる悪名高いジャパン・バッシュャーであり、安倍首相に深い憎しみを抱いているような人物である。

このように大きな偏見があるため、ケイ氏の報告書は事実関係の重大な誤りを数多く含んでおり、われわれは、同報告が第2の「クマラスワミ報告」になってしまうのではないかとこの深刻な懸念を抱く。1996年の「クマラスワミ報告」は、国連関連の報告ということで、慰安婦に関する事実関係の重大な誤りが、世界中に広まってしまった。国連人権理事会は、「クマラスワミ報告」を取り下げるべきであり、また、デイヴィッド・ケイの報告書を採用すべきではない。